

交流で平和な未来を紡ぐ

中東和平プロジェクトin綾部・市民大会

Middle East Peace Project in Ayabe, Citizen Convention



1

市や関係団体でつくる実行委員会（委員長、山崎善也・綾部市長）は8月14～20日、中東和平プロジェクトin綾部を開催しました。今回のプロジェクトには、対立するイスラエルとパレスチナの紛争で、親族などを亡くした若者6人とそれぞれの引率者2人が来日。ホームステイなどで互いに交流し、平和への思いを新たにしました。

ホームステイで日本文化体験

8月14日午後7時、イスラエルの4人が無事、市役所に到着。ホームステイの対面式で、ホストファミリー（滞在を受け入れる家族）らに温かく迎えられました。翌15日は台風10号の影響で、参加予定だった市民平和祈願の集いとあやべ盆おどり大会が中止に。ホストファミリーの家で浴衣を着付けてもらったり、茶道を体験したりして、日本の文化に触れました。一方、パレスチナの4人は

予定よりも1日遅れて出国。台風により到着する空港が急きよ、関西国際空港から成田国際空港（千葉県）に変更され、新幹線で京都に、そして迎える車で綾部に移動しました。ホームステイ先に到着したのは、15日の夜11時すぎ。長旅の疲れを見せながらも、イスラエルの参加者と抱擁して出合いを喜びました。

16日の朝は、両参加者が初めてそろって食卓に。はしの使い方を練習したり、日本食について尋ねたりしながら、朝食を楽しみました。

そろってスピーチ披露

16日午後からは、西町一丁目のI・Tビルで「中東和平プロジェクトin綾部・市民大会」を開催しました。イスラエル引率者のイタイさんが「多くの困難を乗り越え、全員がそろってここに立てたことはとても光栄」と話し、1人ずつ自身の体験を発表。約150人の来場者を前に、紛争で親族を失った悲しみや平和への希望を訴えました。

外務省などで平和を訴え

参加者は19日、参議院と外務省を訪問。駐日イスラエル大使館・駐日パレスチナ常駐総代表部らの同席のもと、山東昭子参議院議長や山田賢司外務大臣政務官と面会しました。山崎善也市長がプロジェクトの概要を説明した後、参加者代表がスピーチ。山東議長は「このような草の根の活動がいかに重要か認識している。肉親を亡くしながらも色々な思いを乗り越え、取り組まれていることに敬服する」と述べ、山田政務官は「紛争で親族を亡くした者同士の交流は難しく、来日したメンバー、綾部市に対し敬意を表する」と同プロジェクトの取り組みを評価しました。

参加者は20日、同プロジェクトの全行程を終了。日本での皆さんの思い出を胸に、帰国の途につきました。市民大会での体験発表は次のとおりです。

父の勧めで遺族会に参加



パレスチナ ヤナ・アブアヤッシュさん

曾祖父と祖父、2人の叔父をイスラエル軍の占領下で失くしました。父の勧めで、9年前に遺族会の活動に参加。そこで初めて、兵士ではないイスラエル人に出会いました。今回日本に来ることができて、とてもうれしいです。

耳を傾け共感することが大切



イスラエル エバ・テンドレットさん

私の育ったテルアビブでは2000年ごろ、パレスチナによるテロが頻発し、恐怖に怯えながら生活しました。パレスチナ人と交流する中で、私のふるさとと相手の「かつてのふるさと」、私たちを守る軍は、彼らにとつての攻撃者だと気がきました。たとえ意見が違っても、まずは話を聞き共感することが大切。い



4



3



2



7



6



5

1市民大会でホストファミリーと記念撮影 2うちわを手に喜ぶ参加者と綾部高校の生徒 3初体験した茶道の作法に驚き 4自分で選んだ浴衣を着付け 5使い慣れないはしにチャレンジ 6全員で京都市内を散策 7山東議長に遺族会の活動などを紹介

の字を選んだ」と笑顔。最後の



田中寛女さん (本町四丁目)



荻野いさをさん (位田町)



永井よりさん (栗町)

ご健勝を お祈りします

敬老の日を前に、山崎善也市長は9月3日、年度内に白寿を迎える3人のお宅を訪問。記念品を手渡し、長寿を祝いました。

今年 は女性26人、男性7人

市は、年度内に白寿を迎える人に記念品などを贈呈し、長寿をお祝いしています。本年の対象は33人で、次の皆さんです(敬称略・誕生日順・掲載了解者のみ掲載)。

荻野いさを(位田町)▽四方憲治(寺町)▽片岡壽々(栗町)▽渡邊恵美子(上八田町)▽加藤フジエ(安場町)▽河北あげの(別所町)▽四方要子(岡町)▽村上榮治(西方町)▽槻瀬石子(駅前通り)▽上原多美子(物部町)▽福山忠(上野町)▽阿部千鶴子(同)▽村上綾子(神宮寺町)▽久木ヒサノ(物部町)▽田中寛女(本町四丁目)▽廣谷江美子(宮代町)▽齋藤スマコ(上野町)▽池田さわ(高津町)▽酒井幸枝(小貝町)▽大槻みさ江(西坂町)▽四方福治(中山町)▽四方ヨシ(七百石町)▽荻野恵子(位田町)▽倉橋均(内久井町)▽朝子孝一(野田町)▽西川節子(八津合町)▽四方はな(星原町)▽永井より(栗町)▽林孝三郎(東山町)

白寿の祝い 99歳おめでとう ピンポイント

敬老の日を前に、山崎善也市長は9月3日、年度内に白寿を迎える3人のお宅を訪問。記念品を手渡し、長寿を祝いました。

相手と向き合う姿に感銘

ホストファミリー 波多野 桜さん(味方町)

ホームステイ中は、普段の生活やお祈りのこと、パレスチナ人がイスラエル側に行くのに許可が必要なことなどについて話しました。よく喋ってよく笑う、私たちと何も変わらない彼女たち。市民大会での発表を聞き、辛い過去があることに驚きました。個人と国は別物であり、平和のために一人として相手と向き合う彼らの姿を、見習わなければいけないと考えさせられました。



アヤさん(イスラエル・写真中央)とラマさん(パレスチナ・写真左)を受け入れる



現在のパレスチナは、ヨルダン川西岸地区とガザ地区のみ。現在も領土争いが続いています

解説 **イスラエル・パレスチナ問題**

双方の歴史の認識が大きく違い、簡単に説明することは困難ですが、基本的にはユダヤ人(イスラエル)とアラブ人(パレスチナ)の土地を巡る争い。第一次世界大戦時、同じ土地に対する権利を双方に約束するイギリスの2枚舌外交が、その原因を作ったと言われています。

1948年のイスラエル建国以降、4度にわたる中東戦争が勃発。現在、イスラエルが軍事的・経済的に圧倒的に優位で、パレスチナの方は小さくなっています。また、アラブ諸国も、一致してアラブの同胞(パレスチナ)を支援する気運が低下。パレスチナ内部も2つの勢力に分かれており、対イスラエル政策に取り組むことが困難な状況です。

解説: 矢野裕巳氏 (大本イスラエル・パレスチナ平和研究所 常務理事・主任研究員)

いところイスラエル軍に殺害され、14歳の時に遺族会の活動に参加しました。日本は自然が美しく、相手を思いやる文化があると聞いています。イスラエルの友人と一緒に日本の文化を吸収したいです。私たちは、平和へ続く正しい道にいます。



パレスチナ ラマ・アブサラさん

1999年、叔父がイスラエル軍に殺害されました。遺族会の活動に参加するようになったのは、2009年。同年に日本に行った兄から、日本人たちはとても温かいと



パレスチナ ラマ・アクダムさん

互いを知ることが、紛争の解決につながると思っています。紛争の終わりを願っている



イスラエル アヤ・ラフトさん

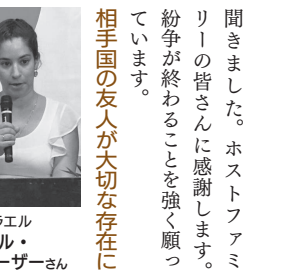
13年前、イスラエル軍のパイロットだった父を、紛争で亡くしました。耐えようのない辛さに、父への思いは募るばかり。毎年夏になると、また紛争が起きるのではないかと恐怖に苛まれます。なぜ領土が命よりも大切なのでしょう。互いに耳を傾け、対話することが平和への唯一の道。日本で共に多くの経験を、互いを知ることが、紛争の解決につながると思っています。



パレスチナ引率者 ムハンマド・アブジャファルさん

2002年、14歳の時に2つ歳上の兄が、イスラエル軍

私のボーイフレンドは2009年のガザでの戦争で国境を守る任務に就いた後、トラウマから悪夢でうなされるように。紛争は、想像以上に私の生活を変えてしまいました。友達と旅行する当たり前のようになくとも、私たちイスラエル人とパレスチナ人の間柄では難しいです。パレスチナの参加者の到着を心配しながら待つ間、私にとって彼らが大切な存在だと実感しました。



イスラエル ミハル・エリーザーさん

聞きました。ホストファミリーの皆さんに感謝します。紛争が終わることを強く願っています。



イスラエル引率者 イタイ・レシムさん

に撃たれて亡くなりました。この出来事は私たちの生活を変え、希望が持たなくなりました。2017年に遺族会のフォーラムに参加。イスラエル人と交流を通じて、彼らも同じ人間だと気づき、少しの希望が見えました。日本は戦争から復興を遂げた、私たちにとってのモデル。東洋の精神的な伝統を学びたいです。紛争が過去になるように



善聞 語録

火中の栗

「火中の栗を拾う」とは、イソップ寓話に基づくフランスの諺で、猿にそのかされた猫が囲炉裏の中の栗を拾って大火傷をする物語から、自分の利益にならないのに他人のために危険を冒す喩えとされる。転じて、自ら進んで困難に身を乗り出す意味でも使われ、戦国の武将山中鹿介が三日月に向かつて「我に七難八苦を与え給え」と念じた話に通じる。勇将曰く「難事であればあるほど自らの器量が増え、迷った時は難しい方を選べ」と成功者の多くは語る。それが自身成功のバネになった。しかし逆説的には、成功ほどに敗者の弁はない。確かに成功者には苦難を乗り越えた人が多いが、逆は必ずしも真ならず、苦労がすべて報われるとは限らず、また成功の陰には敗者があるものだ。強大なる仇敵を相手に主家再興を挑み続けた忠臣鹿介は、ついぞむなしく敗れ去った。

強い心と運の持ち主ならば、敢えて挑戦するもよしとしようが、一方で真の戦上手とは負ける戦はしないもの、との論もある。さて、凡人ならどうする? 詰まるところは、時の流れを読みながら己の心の声に沿うしかないのか。焼けた栗は生グリよりも美味かろうが、その誘惑の前に冷静に己と場を顧みる姿勢が、一度きりの大切な人生を悔いなきものに導いてくれる。それを慎重と見るか臆病と呼ぶか。ただその人生は決して「凡庸」など捨て置きたくないはずだ。

山崎善也(綾部市長)

自作のロボットで対戦

綾部鉄工工業協同組合（大槻浩平理事長）は青野町のものづくり交流館で「あやべロボットコンテスト2019」を行いました。このコンテストは、7月24日に参加者がロボットを製作し、家に持ち帰って改造。1か月後の8月24日の競技会で、5本のロープを運ぶ速さを競いました。優勝した物部小6年の人見凌平くん（物部町）は「ブルドーザーの形で全部のロープをまとめて落とした。参加してよかった」と話しました。会場には、吉本興業所属の京都府住みます芸人「モンブラン」が実況で参加。休憩時間に大道芸などを披露し、会場を盛り上げました。



人権を学ぶセミナーはじまる

市は8月27日、里町の中央公民館で第1回「人権を考えるセミナー」を開催しました。当日は226人が参加。講師のみえ人権教育・啓発研究会代表の松村智広さんは「他人事ではなく自分事のように考えると、人にやさしく接することができる。知識を認識に変えることが必要」と、他人を思いやる感覚を磨く大切さを伝えました。同セミナーは12月まで毎月1回開催。この機会にぜひご参加ください。



大きな紙をわしわし!

8月3日、十倉名畑町の黒谷和紙工芸の里で和紙に触れて学ぶ体験イベント「和紙をわしわし!」が開催されました。7組15人の家族が参加し、黒谷和紙の作り方や歴史を展示している施設内をクイズラリー形式で見学。その後、和紙を実際に触り、丸めて投げたり、くしゃくしゃにしたりして、手触りや強度を体感しました。



市民創作あかり鮮やかに

8月11～14日、青野町のあやべグンゼスクエアで「あやべ夏あかり」が開催されました。綾部の特色を表現した、市民による12種類のあかりが会場を彩りました。

各種催し多様に あやべ産業まつり

2日間も来場した人には
抽選で、あやべ温泉のペア宿泊券などが当たります。

毎秋恒例のあやべ産業まつり（同実行委主催）や例年11月に市農林業振興祭やあやべ商工フェアなど、4つのイベントを同時開催してきました。本年は、各イベントの趣旨を分かりやすくするため農林関係と商工関係のイベントに分け、10月に2日間にお



上/フルーツカービングの実演と体験教室を実施（当日受付）
下/水源の里集落の特産品なども販売します（いずれも5日）

たって開催。本市の産業を広くPRします。

車は指定の駐車場へ

駐車場は、あやべグンゼスクエア（青野町）や由良川花庭園（同）、あやべ・日東精工アリーナ（西町三丁目）などに約600台分を確保しています。周辺商業施設には絶対に駐車しないようお願いいたします。駐車場は混雑が予想されます。あやべバスの利用や徒歩、自転車での来場にご協力ください。



ピンボールなどのゲームで景品も（6日）

まちなかのにぎわい創出

綾のまぢめぐりフェス

豪華景品をプレゼント

綾のまぢめぐりフェス（海の京都）綾部地区協議会主催）は、10月19日（土）から11月17日（日）まで市街地一円で開催。西町アイタウンで買い物をするにユニバーサル・スタジオ・ジャパンのペアチケットなど、豪華景品が当たるプレゼントキャンペーンやワンコイン商店街などを実施します。



©H.Katsumata
日本代表時代の相根さん

初日は企画が盛りだくさん

19日は、午前10時から午後3時まで西町アイタウン一番街を歩行者天国にし、オープニングイベントを開催。本市

綾のまぢめぐりフェス期間中イベント

- 秋のバラまつり（10月19日～、綾部バラ園）
 - 綾部市菊花展（11月2～6日、あやべグンゼスクエア）
 - 秋のふれあい牧場まつり（11月3日、綾部ふれあい牧場）
 - 私市円山古墳まつり（11月3日、私市円山古墳公園）
 - 黒谷和紙ともみじ祭（11月10日、黒谷町）
 - 山家もみじまつり（11月15～17日、山家城址公園）
 - 綾部もみじまつり（11月15～17日、大本本部）
- （期間、会場）

出身で元フットサル日本代表の相根澄さんII写真IIや元東レアローズ（女子バレーボール）の大槻めぐみさんなどをパーソナル関係者によるトークショー▽グルメブースの出店▽国立農業大学の野菜やお茶の販売▽ヤカーリンダーなど、楽しい企画が目白押しです。

秋の恒例イベント「あやべ産業まつり」と「綾のまぢめぐりフェス」について紹介します。どちらもお誘い合わせの上ぜひご参加ください。